

RE・START

リスタート

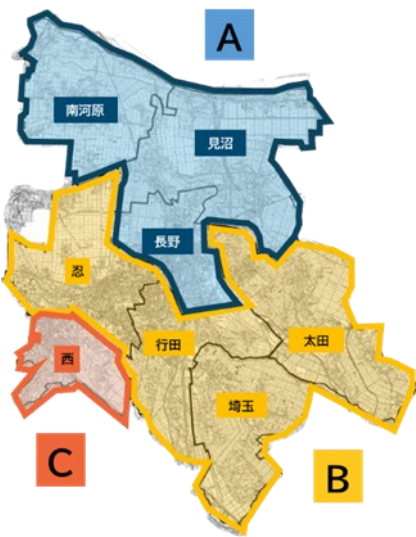


発行 行田市教育委員会

本市の児童生徒数は減少が進んでいます。これに伴い、学校が小規模化し、子どもたちが多くの仲間と人間関係を築き、社会性を育む機会が少なくなるといった課題や、多様な教育活動を行う上で支障が生じています。また、学校施設も老朽化が進み、これからの時代に求められる教育環境とはいえない状況です。

こうした状況を踏まえ、市ではより良い教育環境を整備し、質の高い教育を実現するため、令和16年度までに20校の小中学校を3校の義務教育学校に再編する取組みを進めています。

各通学区域(A・B・Cブロック)における新校開校に向けた大まかな目標スケジュール



年度	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16
Aブロック			基本構想	基本設計	実施設計	工事		開校(目標)		
Bブロック	基本構想	基本設計	実施設計	工事		開校(目標)				
Cブロック					基本構想	基本設計	実施設計	工事		開校(目標)

Bブロック新校に関する基本構想(案)を作成しました

このたび、忍・行田・埼玉・太田中学校区の義務教育学校(Bブロック新校)の設計や工事を進める上での基本的な考えを示す、基本構想(案)を作成しました。

この構想(案)の作成に当たり、Bブロックの児童生徒、保護者、地域の皆様、教職員に対してアンケートを実施した他、新校のコンセプトや機能などについて提案をいただくワークショップを開催し、皆様からの声を反映しています。

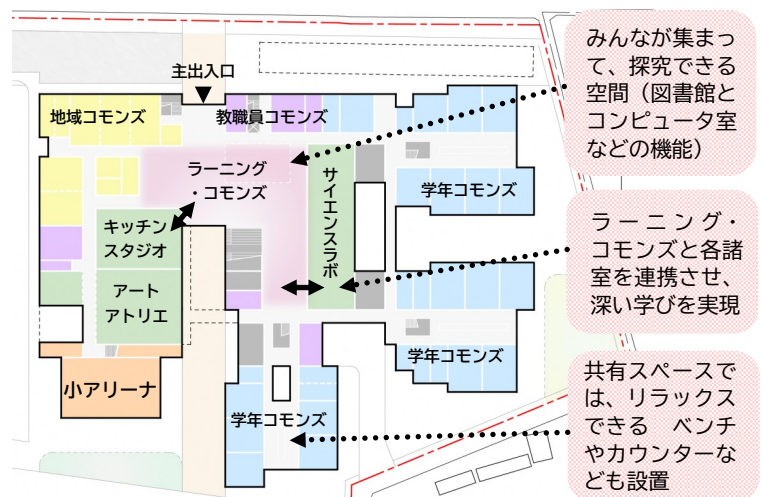


新校の敷地

「教育文化センター『みらい』南側」

住居表示：佐間3丁目 敷地面積：38,200㎡

【参考】1階の平面計画(3階建てを計画)



引き続き、皆さんと一緒に魅力的でワクワクする学校づくりに取り組んでいきます。

質問	回答
<p>つくば市の前教育長が2016年に「新しい義務教育学校は作らない」と明言したそうですが、行田市ではつくるのですか？</p>	<p>つくば市では、2018年以降に<u>4校の義務教育学校を設置し、現在も充実した教育を実施しています。</u>2024年には児童生徒数約1,900人の「つくば市立みどりの学園義務教育学校」を訪問し、先進的な教育内容について学びました。同校は文部科学省のリーディングDX推進校やAIパイロット指定校で、<u>上級生が下級生に教えるなどの取り組みが行われています。</u>つくば市教育委員会から義務教育学校として肯定的な評価を伺いました。</p> <p>また、他の自治体の義務教育学校を訪問した際も好意的な評価が多く、義務教育学校の設置は本市にとって意義があると考えています。</p>  <p>「みどりの学園義務教育学校」を視察した時の様子</p>
<p>つくば市では小・中の分離を進めているのですか？</p>	<p><u>開校済みの義務教育学校を分離したという事実はありません。</u>現在も9年間の連続性を活かした教育が実施されています。</p> <p>なお、つくばエクスプレスの開通による人口流入に伴い、過密状態の解消を目的として、新たな小学校や中学校の設置が進められていると伺っています。</p> 
<p>行田市が設置しようとしている義務教育学校は標準規模を超えているようですが、大丈夫ですか？</p>	<p>教員は各校の学級数に応じて配置されますが、<u>本市では学校の小規模化が進み、教員が十分配置されていません。</u>そのため、<u>業務分担ができず多忙化が進み、子どもに接したり、教材研究を行ったりする時間が十分確保できない</u>といった課題を抱えています。</p> <p>こうした課題を緩和し、魅力ある教育活動を展開するため、十分規模を確保し、1校当たりの教員配置を充実させる必要があります。</p> <p>具体的には、<u>後期課程(中学校)は、全ての授業で教科担任による学習指導を行うために、少なくとも9学級(各学年3学級)必要</u>であり、<u>充実した指導を行うには、同一科目に複数教員が配置されることが望ましい</u>と考えます。したがって、後期課程の学級数は18学級(各学年6学級)確保することが理想的です。</p> <p>また、小中一貫教育を進める施設一体型の義務教育学校では、小中学生の通学区域が同一になり、前期課程(小学校)も後期課程と同規模(1学年3学級～6学級)になると想定しています。</p> <p>こうした考えから、本市では義務教育学校で充実した教育活動を行う上では、27学級から54学級程度が必要であると認識しています。</p> 